

【草花の部屋】

ユキノシタ (ユキノシタ科ユキノシタ属 *Saxifraga stolonifera*)

和名 ; ユキノシタ (雪の下) **別名** ; イドクサ、コジソウ (虎耳草)

英名 ; Strawberry Geranium

ユキノシタ目 常緑多年草 **原産地** ; 日本、中国

花言葉 ; 情愛、切実な愛情 **花の色** ; 白



← 写真-1 ユキノシタ

撮影日 : 2023年5月30日

撮影場所 : 米原市醒ヶ井養鱒場にて

撮影者 : Mさん



→ 写真-2 ユキノシタ

撮影日 : 2023年5月30日

撮影場所 : 米原市醒ヶ井養鱒場にて

撮影者 : Mさん

米原市の JR 醒ヶ井駅から車で 10 分ほどの場所にある醒ヶ井養鱒場で見かけました。JR 醒ヶ井駅のすぐ近くには、梅花藻の生育地もあります。養鱒場の中にも、生育場所がありましたが、どちらも蕾の状態でした。

ユキノシタは谷川べりなど低地の湿った場所や、雑木林や山地の半日陰地で岩場や沢沿いの石垣などに自生します。また、人家の庭の日陰や生垣にも見られること

が多い植物です。

→ 写真－3 ユキノシタの花

撮影日：2023年5月30日

撮影場所：米原市醒ヶ井養鱒場にて

撮影者：Mさん



ユキノシタは中国にも見られますが、古い時代に薬用あるいは食用として中国から渡来したものが野生化したという説と、日本も自生地とする説があるそうです。

葉は根元から長い葉柄を出してロゼット状に集まり、葉身は円形に近い腎臓形で縁に粗く浅い鋸歯があります。葉の表面は暗緑色で葉脈に沿って白い斑が入り、裏側は赤みを帯びます。茎は赤く、葉茎には荒い毛が生えています。シックな暗緑の葉に入る白い斑が美しく、常緑の葉はカラーリーフとしての高い観賞価値を持つそうです。また、葉の縁に白い覆輪の入る斑入り品種もあるそうです。

花期は初夏で、高さ20～50cmの花茎を出し、先に円錐花序を形成して多数の白い花をつけます。花は5弁で長短があり、このうち上の3枚が小さく濃紅色の斑点があり、下の2枚は大きくて白色で細長く、垂れ下がるため、花姿は同属の近縁種であるダイモンジソウに似ています。

花後の種子によって増やすことができますが、ユキノシタの繁殖は株元から生じる蔓状の「匍匐枝」によるところが大きいようです。縦横無尽に広がる匍匐枝は、その先端から根を出して新たに株を作ります。糸のように細くて除去しにくいので、庭園においては意図せずに繁茂することがあるので要注意です。

肉厚の葉には特有の苦みがあるものの、天婦羅、和え物、御浸しなどにして食用され、京料理では搔敷(かいしき、敷物)にも使われているそうです。花も花茶や、椀だねとして食用されるそうです。

園芸素材としては、一度根付けば肥料を施すなどの手間がらず育てやすい植物です。雪の下(ユキノシタ)は丈の低い植物なので、半日陰から日陰の雑草除けのグランドカバーとしてお薦めの植物です。根の張り方が浅く、手で簡単に抜く事ができ、増えすぎた時に整理もしやすい植物です。

<ちょっと一言>

*ユキノシタという名前の由来には、「葉の上に雪が降り積もったように花が咲く」ことによるとのが一般的だそうですが、下記の諸説もあるようです。

- ・雪が上につもっても、その下に枯れずに緑の葉があるからとする説。
- ・白い花を雪(雪虫)に見立て、その下に緑の葉があることからとする説。
- ・葉の白い斑を雪に見立てたとする説。
- ・垂れ下がった花卉を舌に見立てて「雪の舌」とする説。

*日本では地方により下記の呼び方があるそうです

イドグサ、イトバス、イケハタ、イワブキ、キジンソウ、ミミダレグサ。

*中国植物名にもなっている虎耳草(こじそう)とは、葉の丸い形や模様がトラの耳を連想させるから名付けられたそうです。